

## 多様な人が集まる集団だからこそ

理事長 栗原秀人

新理事長を仰せつかりました栗原です。どうぞよろしく願いいたします。

佐藤前理事長には 2 期にわたりありがとうございます。

学究肌の佐藤さんならではのテーマ設定と講師招聘による研究集会は下水道等の将来を考えるのに参考と



すべきものばかりでした。また、コロナ禍の中、オンライン手法を導入され、これまでにない取り組みと新たな参加者を開拓することができ、当倶楽部の今後を開いていただきました。阿部副理事長、神山理事、河井監事にはそれぞれにご苦労いただきありがとうございます。

新しい副理事長には昆さんに就任いただきました。

新理事のうち札幌の高橋正宏さん、大阪の大屋さんは地方在住ですが、これもオンラインのお陰だと思います。秋山さん、高橋真澄さんとお二人の女性に加わっていただきました。畑田監事は関係者間を調整する PM の仕組みを創られたと聞いております。

実に多様な方々に加わっていただいていた新体制となりました。

「よそ者のいる組織は強い！」と言われます。ここでいうよそ者には排他的な意味はありません。「よそ」は「他所」、生まれ育った地域、就職した職場、従事した職種・仕事等々、それぞれの風土や経験は、異なった思考や価値判断基準を持った人を育てます。

皆さんは、役所と民間企業、コンサルとメーカーなどの業種の違いだけでなく、同業他社との企業風土の違いも肌で感じておられることと思います。

風は追い風だけではありません、向かい風も横風も吹いて

きます。組織の全員が同じ考えで一枚岩だ、一見真っ当に思われますが、事態の変化への対応力が脆弱です。こうした時、異なった考えを持つ、新たな発想ができるよそ者は貴重な存在、よそ者が内部にいる組織は柔軟で強靱だと言われる由縁です。

当倶楽部には国・地方、コンサル・土木・機電・維持管理等々様々な職種と経験を持った方々、つまり多くのよそ者が集っています。よそ者がお互いの違いを認め合い、足らずを補い合った時、組織の力は一段と大きく強くなります。これを「よそ者力」と呼びたいと思います。

下水道等を取り巻く環境は激しく変化し、これまでの思考・手法が通用しなくなっており、大きな転換が求められています。会員皆様の積極的なご意見とご提案をいただいて切磋琢磨し、異業種交流も進めて、当倶楽部の「よそ者力」を高めながら、「これからの下水道」等を各方面へ発信していきたいと思います。

## 2021 年度活動報告

### 令和 3 年度通常総会報告

理事・事務局長 押領司重昭

令和 3 年度の通常総会が、6 月 18 日（金）に東京都文京区小石川（株式会社三水コンサルタント会議室）及び Web 会議を併用したハイブリット方式により開催されました。審議事項は、次のとおりです。

第 1 号議案 令和 2 年度事業報告、活動計算書

第 2 号議案 令和 3 年度事業計画、活動予算

第 3 号議案 理事及び監事の選任

正会員数 89 名のうち、会場出席 7 名、Web 出席 23 名及び委任状 39 名、計 69 名に出席いただき、各議案が事務局から説明され、夫々承認されました。

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の状況から、書面表決と委任状により、最小限の出席者により総会の議事を運営しました。事務局では、Web 会議システムの導入と普及に努め、理事懇談会、各部会打合せから研究集會までオンラインで実施

秋山礼子理事



この度、総会にて理事に選任されました秋山礼子と申します。

大学卒業後、(株)荏原製作所に入社、男女雇用機会均等法第一期生でした。新入社員研修は、女性一般事務職とは別で、羽田工場、藤沢工場、OEM 先の姫路の工場と場所を変えてポンプの構造や理論と実践、マーケティングの研修を一ヶ月間

受けました。先月、世田谷区の一級建築士宅で打合せ中に、台所床下のポンプの調子が悪いという話になり、覗くと荏原ポンプでしたのでその場で修理をして驚かれました。まだ腕は落ちていないようで、今となっては特技の一つということでしょうか。

7年間全国のポンプ担当で、その後、新組織のゼロエミッション推進室に異動になりました。

新部署では、太陽光発電システム、風力発電システム、廃棄物固形燃料化システム、堆肥化装置等々、荏原の様々な製品やシステムの提案営業をしました。特に、山梨県明野村（現在は北杜市）の食と健康をテーマにした温泉活用養生施設「明野ふるさと太陽館」では、温泉施設屋根面の太陽光発電システムを受注することができました。日本一日照時間の長い明野村のシンボルになり、地元特産品を活かした魅力的な施設を提案するために、村のお祭りに参加したこと、甲府や韮崎の企業と交流したことは今でも思い出されます。

現在は緑化の会社に籍を置いています。建物の外構、壁面、屋上、室内の緑化を設計施工しています。「人間は本能的に自然とのつながりを求める」という考え方のバイオフィリア緑化に注力し、オフィス環境を整える提案をしています。

私自身、結婚直後から四年間、福島県阿武隈山系の中腹で自給自足の生活をしていました。

自然の中で一生物として暮らす体験を通して、前にも増して様々な環境問題を意識しています。生命の源である水に関わる問題について、深く学んでいきたいと思います。

微力ではございますが、皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら、当倶楽部の発展に貢献していきたいと思っております。どうぞよろし

ることができるようになりました。このことから、本年度の総会は、前述のとおりハイブリット方式により実施しました。

しかしながら、会場出席方式と異なり Web 出席者の表決を把握しづらいという課題があります。Zoom のアクション機能やマイクをオンにして発言していただくなどの運用が考えられますが、何れも手間（操作）を要します。このため、採決にあたって、先ず、Web 出席者の反対意見を確認することにしました。反対意見がなければ、スムーズに Web 出席者の表決を確認することができます。

また、昨年度は見送りました記念講演をオンライン方式により実施することにしました。柏谷衛会員に「旧建設省での下水道研究創成期の思い出」と題し、講演していただきました。「赤羽の研究所」、「岳南排水路」、「尾西特水」、「浮間処理場」など、半世紀も前の下水道研究の創成期の生のお話をお聞きすることができました。まさしく、オーラル・ヒストリーといえる講演でした。

続いて、総会後の懇親会もオンラインで行いました。26 名の方に、自宅から寛いだ様子で、好みの飲み物とつまみを用意し参加していただきました。公務のため来賓の方の参加は叶いませんでしたが、国土交通省水管理・国土保全局下水道部長植松龍二様、公益社団法人日本下水道協会理事長岡久宏様、日本下水道事業団理事長森岡泰裕様からお祝いのメッセージをいただきました。この中で、記念講演に関する意見交換（質疑応答）と柏谷会員の講演を終えての感想などをお話いただきました。オンラインでの懇親会ですが、話題が途切れることなく、盛会となりました。写真は、盛り上がったオンライン懇親会の模様です。



個人を正会員とする本会は、会員が交流できる総会行事を運営すべく、Web を活用して、従来のように記念講演及び懇親会を行いました。引き続き、対面+Web のハイブリットにより会の運営及び活動に努めてまいります。

くお願いいたします。

## 高橋正宏理事

この度の総会で理事に選任頂きました高橋正宏です。

私が水環境に関心を持ったのは高校卒業時の昭和47年(1972年)、山陽本線で瀬戸内海沿岸を旅した時です。(山陽新幹線はまだありません)海全体が茶褐色で悪臭を放っていました。北大に入



学して、迷わず衛生工学科に進級しました。大学院修了後は、建設省土木研究所下水道研究室を志願して、以来、滋賀県下水道計画課、下水道事業団大阪支社にお世話になった4年余りを除いて、研究畑を退職まで務めさせていただきました。この間、国や下水道事業団、地方自治体、関連業界の方々と、現場調査や共同研究、委員会活動などを通じて広く知遇を得、当NPOにもおなじみの方が多数いらっしゃいます。

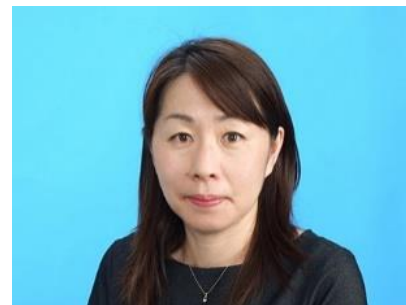
平成17年からは北海道大学環境工学科(旧衛生工学科)に水環境保全工学研究室、教授として奉職し、平成29年に退職しました。現在は、中小下水道未来構想研究所を主催しております。

土木研究所当時、これから地方中小都市へ下水道を普及させるため、小規模下水処理場に適した処理方法の研究を行ってきました。日光市、湯元処理場のOD法、鶴岡市の礫間接触法、松山市の高速散水ろ床など、泊まり込みで機能調査を行いました。現在、大部分の小規模下水処理場はOD法で設計されています。しかし、小規模下水処理場が将来どうなるかについては、恥ずかしながら全く考えていませんでした。今、急速な人口減少、高齢化が中小自治体の確実な未来となり、そのような自治体の中心市街地でどのような水インフラが持続可能かを明らかにしなくてはなりません。(ちなみに、人口密度の低い市街地周辺では、浄化槽や井戸など、スタンドアロンな水インフラが電力さえ確保できれば可能です)私自身あまり時間は残されていないかもしれませんが、小規模下水道の普及に一役買った者の責任として、このテーマをこれからも追求していくつもりです。

## 高橋真澄理事

このたび、総会において理事を拝命いたしました高橋真澄と申します。

本倶楽部への入会は、地元横浜市の北部汚泥資源センターへ



の見学会に参加し、懇親会で水倶楽部の活動内容等をお聞きしたことからでした。本倶楽部の活動を通し、下水道事業について多角的に知識を高め、下水道の発展に貢献したいと考えております。

学生の頃は廃棄物等環境分野について学び、その後コンサルタントを職として、約20年にわたり下水道に関わる業務を行ってきました。

現在は、下水道全体計画、処理場再構築、経営戦略、ストックマネジメント計画、耐震計画等、様々な計画、各地の事業体に関わっています。いまの楽しみは、前述のどの計画の業務でも、全ての計画の課題を抽出し、将来構想を思い描くことです。今後は、次世代育成のために探求授業、教材の提供や維持管理が学べるアプリの開発や誰でもタブレット端末一つで維持管理・データ解析ができるような開発も行えたらいいなと思っています。

女性ならではの柔らかく、生活に寄り添った視点で、下水道事業を盛り上げていきたいです。

21世紀水倶楽部の発展のため微力ながら精進してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 畑田正憲監事

この度の総会で監事に選任されました畑田正憲です。

(田)の一文字が抜けると小説家、動物研究科、プロ雀士として有名な方と同じ名前になります。「タヌキのムツゴロウ」と覚えて頂ければ幸いです。昭和53年に日本下水道事業団に入社し42年余り勤務



した後、河井竹彦さんの後任として、昨年より一般財団法人下水道事業支援センターに勤めております。

出身は山深く海碧い紀伊半島の先端、三重県熊野市です。趣

味の料理は、3度の単身赴任（全て大阪）で覚えた酒のつまみづくりがきっかけで、もう10年あまり毎朝お弁当作りを兼ねた朝食の用意が1日の始まりです。土日はソフトボールの練習と試合に明け暮れています。

倶楽部のメンバーの方々の多くは上下水に関する豊富な経験と知識を有しており、少し気後れを感じておりますが、微力ながら盛り上げていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

## 編集幹事のあと整理

- 新理事長の栗原秀人氏とは昔の同僚です。私のほうが少し年嵩なので、四捨五入するといずれも百歳になるいまに至るまで「大きな顔で」接してきました。愛称は「クリちゃん」ですね。
- 栗原理事長からは2通玉稿をいただいでいて、今号はそのうちの「理事長就任決意バージョン」のほうです。写真も二葉で、今号で選んだのは「クリちゃん」風笑顔のものです。接しているところの笑顔が99%です。もう一葉のレアな真面目顔のものは次号に予定しています。
- 新役員自己紹介の大屋弘一理事は都合により次号掲載となります。
- 会員日よりコーナーへの投稿を募集しています。ステイホームなので多くの投稿を期待しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月